

敬惜字紙について（2）

—『惜字徵驗録』と『台湾的惜字亭』の
紹介を中心として—

川 崎 ミチコ

（1）はじめに

「敬惜字紙」（惜字・惜字紙とも称す）は、その行為の上での具体的対応状況から大別して、二通りの見方をすることが出来る。

一つは、「字紙」^{注(1)}を敬惜・愛惜する為の行為である。「字紙」の蒐取・洗浄・乾燥・収積・焚焼^{注(2)}・焚灰の散布という手順である。この手順で「敬惜字紙」するということが、儀式化されたものが台湾で今日も行なわれている。これを「送聖蹟」又は「送字紙」と呼んでいる。

もう一つは、その実行者の心底には十分に「字紙」に対する敬惜・尊崇の念は存在するのであるが、その表現方法が前者とは異なり、バラバラにして置いたならば散逸してしまうであろうとか、破損し結果として失われてしまうであろうということを見越した形での我々が通常言うところの「貼り込み帖」^{注(3)}的の形状の物（別に「反故帳」と言ったりもする）を作り出すことを言う。更に、この「貼り込み帖」を拡大解釈したものに、黄苗子著『敬惜字紙』^{注(4)}という著者の作品を蒐め編輯した著作集がある。

本稿では、前者で言うところの「敬惜字紙」についてとりあげ、「敬惜字紙」ということが、その受け手であり実践者であるところの人々にとって、どのように考え、解釈し、理解していたのかということについて、文字資料を用いて確認しておきたいと思うのである。

本稿で用いる資料は、述古老人著『惜字徵驗録』と張志遠著『台湾的敬字亭』の2冊を中心として、その他、晩清・民国初期の文献を用いることにした。

(2)

(2) 『惜字微驗録』について

『易』の文書伝に、「積善之家必有餘慶」（善行を積み重ねた家には、その報いとして必ず子孫にまで及ぶ幸福がある。）という記述がある。

このことから判るように人々は、善きことを実践すれば、その応報として、実践者ばかりかその子々孫々に至るまで、良き報いがあると考えたのである。又、何如なることを行なえば、どのような報応を受けることが出来るのかということを、判り易く示した、応驗譚・功過律などを示す書物も出現することとなっていったのであった。

ここでいう「善きこと」の実践・実行を勧め、「悪しきこと」を実践・実行しないように諭す為の書物の存在に眼をむける必要がある。この書物を「善書」（又は「勸善書」という）。つまり、勸善懲悪を説く書物である。

酒井忠夫著『中国善書の研究』^{注(5)}の緒言には、

善書とは勸善の書という意味の語で、宋代以後一般に用いられた。勸善を説く書であるから、販売のために刊行されるものではなく、無償で人に施与されることが多かった。この勸善とは単に儒教の經典の中で説かれる道徳の実践を勧めるという意味ではなく、民衆にも受け入れられるような通俗的な意味で用いられている。—中略— 従って善書とは、勸善懲悪のために民衆道徳及びそれに関連する事例・説話を説いた民間流通の通俗書のことである。善書の内容が三教混合の民衆信仰の中で民衆道徳を説くだけでなく、書物の形式も儒教及び仏・道兩教の經典とは異なった俗書であった。俗文を用いたり、語り物式の構文を採り入れたりして、民衆的性格が強く、民衆に「演説」されることがあり、絵図を挿入した「図説」の作られるものもあった。善書の民衆的性格からして善書の作製者は、民衆の立場に理解をもちうる在野的な読書人であることが多かった。善書は南宋初期に李昌齡が作った太上感應篇をはじめ、無数に多いが、その流通は明末清初を頂点として明清時代にその極盛期を現出した。—中略— 明清の善書は、明清代の社会の変貌発展と結びついた歴史的意義をもっている。—中略— 明末清初の善書に示される民衆道徳の内容は、直接に近代社会の倫理規範に結びつくものではない。またその民衆道徳を生み出した民衆的宗教意識も、近代のプロテスタンティズムの果たした役割と

は、およそ異質のものである。—以下略—
と記されている。

つまり、繰り返えしになってしまうが、善書とは、身分階層・職業・男女・老幼などの区別なく、すべての人に対して善行に励み、悪行に向うことが無いようにと説いた「勸善懲悪」の書なのである。

さて、本章で扱う『惜字徵驗録』も善書である。

以下、『惜字徵驗録』について、その記載内容について説明することにする。

筆者が2005年8月、台湾にある芝山巖惠濟宮に於いて、沢山山積みしてあった「善書群」の中から入手したのが、この『惜字徵驗録』である。当時は「敬惜字紙」という中国に脈々と生き続けている「習俗」「文化」に関係する資料を捜していたため、この『惜字徵驗録』を見つけた瞬間、まさに欣喜雀躍状態となったことが思い出される。

本書は、縦18.9×横13.0×厚1.1 (cm) の小型本である。

筆者の入手したものはオレンジ色の表紙の並装本であるが、表紙には、述古老人著／惜字徵驗録

とあり、

背表紙には、

惜字徵驗録 / 述古老人著

とある。

更に内表紙には三行にわたり、

甲戌年春三月 (右側) / 惜字徵驗録 (中央、他の二行より大字) / 龍鳳山述古老人題 (左側、文字の下に「述古老人」という角判四文字の押印有り)

とあり、その裏には、前後に「字簍」^{注(6)} をかついだ男性の絵図がある。

次いで、

述古老人序 (頁1-1行目～2-2行目) 文末に、

癸酉年^{注(7)} 季冬月中浣龍鳳山述古老人序

とある。

更に、叙言 (頁3-1行目～4-8行目) 文末に

甲戌年^{注(8)} 仲春月淮東又天居士唐光先謹識

とある。

(4)

以後順に記述されている記事を羅列することにする。

凡例 (凡例の 頁1-1 行目~2 頁-8 行目)

借字徵驗録 目録 (目録の1 頁): 叙・凡例 (在目録前)・勸惜字文・勸惜字紙説・勸立惜字會社啓・習字法・勸各界惜字 (六十三條)・功罪律・宥悔遂報例・惜字會簡章・敬褻徵驗録 (八十條)

呂祖師論 (呂祖師論の一頁)、題字の下に細小字で

民國辛丑50年12月初三夜降于泰京宏德堂

と記されている。題字を含めて全12行。

勸惜字文 (勸惜字文から新たに頁付けが始まる。以後この頁付けに依る。頁1-1 行目~3-8 行目)

勸惜字紙説 (頁3-9 行目~頁4-13行目)

勸提倡設立惜字會社啓 (頁5-1 行目~8-8 行目)

習字法 (頁8-9 行目~13-13行目)

(甲) 中華人不可不工中華書法

(乙) 學書先學執筆

(丙) 大字要懸腕

(丁) 小字要提腕

(戊) 身法

(己) 総論

勸各界惜字六十三條 (頁14-1 行~34-13行)

文昌帝君惜字功律二十四條 (頁35-1 行目~37-1 行目)

文昌帝君褻字罪律二十九條 (頁37-2 行目~39-7 行目)

宥悔遂報例 (頁39-8 行目~40-7 行目)

惜字會或惜字社簡章 (頁40-8 行目~43-8 行目)

徵驗録 (頁44-1 行目~203-絵図)

徵驗録は偶数頁に徵驗の内容が文章で記されており、奇数頁にはその内容が絵図化されている。

頁44: 買字紙造還魂紙慘遭火劫

46: 侵吞惜字公款致遭獄死

48: 燃字紙吸煙致遭二目失明

50: 不惜字灰減削壽算

52: 廢書換碗罹疾致死

- 54：污褻字紙致遭兵燹
56：悔過致獲善報
58：悔悟惜字得子享年
60：褻字遭焚懊悔愈疾
62：字紙糊鞵罹遭雷火
64：削皮糊窗割肉抹桌
66：一言阻善幸悔獲全
68：繡字污褻發疔斃命
70：淫褻佛典家敗人亡
72：刻字褻字獲罹陰譴
74：擲經惡報
76：食物印字報遭絕嗣
78：磁器模字遭罹火劫
80：教師穢褻雷擊亡身
82：煙紙印字遭罹火災
84：污褻國寶慘遭雷擊
86：倡牌變犬
88：竹箸烙字報罹目盲
90：偷燒字簍火焚斃命
92：褻字絕嗣
94：綢緞印字敗家亡身
96：褻字雷誅
98：手巾印字兩目失明
100：鞋底印字惡疾夭亡
102：惜字賜生貴子
104：惜字昌後
106：惜字拔取首選
108：惜字弄璋
110：惜字三世出通儒
112：浴焚字紙老蚌生珠
114：乞丐拾字投生富貴
116：典衣買字誤取銀行經理

(6)

- 118：焚字紙灰內現元寶
120：埋葬字灰子孫顯貴
122：愚人惜字得智慧樂
124：掘地得金
126：五世同堂之由來
128：江西俞縣長德政
130：五十四歲忽生一子
132：帝命大賚
134：還陽做縣長
136：裸體畫報
138：毀淫書得寶換相
140：惜字轉世貴家
142：捐俸買字路獲白鏹
144：工友惜字福報
146：拾字免溺
148：惜字延壽
150：送子到兩口惜字家
152：惜字消災免劫
154：惜字子孫富貴
156：雷擊經期女傭
158：保存經版獲福
160：印送善書享大年
162：惜字化劫增壽得子
164：燭坊提倡禁用字紙
166：惜字並印送善書善報
168：字灰保險
170：惜字享年昌後
172：裝運善書巧博厚利
174：悔過惜字延生
176：拾字愈病
178：敬字大牌祛匪
180：惜字添子智慧

- 182：惜字會員^〇簡免疫
 184：字灰奠基
 186：字灰安瀾
 188：惜字化劫
 190：褻字盲目生妻去帷
 192：惜字禦災
 194：惜於無形
 196：溺江不死
 198：廣惜字福壽康寧
 200：削草紙邊宜子孫
 202：拾字得鈔復業

文帝百字銘（頁204）

次いで、奥付頁がある。この頁は上下に分かれており、上段には
 普爲出資及讀誦受持／輾轉流通者回向偈曰とあり、その後、

願以此功德	消除宿現業
增長諸福慧	圓成勝善根
所有刀兵劫	及與饑饉等
悉皆盡滅除	人各習禮讓
讀誦受持人	輾轉流通者
現眷咸安樂	先亡獲超昇
風雨常調順	人民悉康寧
法界諸含識	同證無上道

という五言十六句が記されている。

下段は書名である『惜字徵驗録』とやや太字で書名が記され、その左
 には承印者の住所・電話番号が記されている。

以上が『惜字徵驗録』の全構成及びその内容である。

全部で80件の応報譚が収載されているが、次に、3件の応報譚を紹介
 する。

第6話：汚褻字紙致遭兵燹

上海市閘南北於光復後工廠工人。以及居民。多不愛惜字紙。或以之
 焚火。或以之拭穢。遍處飄揚。聽其踐踏。狼戾字跡。達於極點。在
 民國二十年戰禍未興之前。忽有一童子於閘北市上歌曰。奇哉奇災。

(8)

赤烏飛來。斯文有靈。聞北上海。言已。追之不見。未數月。果遭日本兵燹之禍。慘不可言。

(上海市の閘南北は光復の後に於て工廠の工人より以て居民に及ぶまで、多く字紙を愛惜せず、或いはこれを以て火を焚き、或いはこれを以て穢を拭い、遍く處に飄揚し、其の踐踏めろを聽し、字跡を狼戾すること、極點に達す。民國二十年戰禍未だ興らざるの前に在りて、忽ち一童子有りて閘北市上に於いて歌いて曰く「奇なるかな、奇して災あるか。赤烏飛來す。斯の文に靈有り。閘北上海と。」言已る。これを追うも見えず。未だ數月ならずして、果して日本の兵燹せんの禍に遭う。慘なること言うべからず。)

第39話：埋葬字灰子孫顯貴

湖南孫貴生。敬惜字紙。汚穢者洗以柏水。焚後灰埋浄土。二十餘年如一日。生二子。一團副。一將軍。親友效之。均皆顯貴。子孫亦多。此係埋葬字灰之報也。

(湖南の孫貴生、字紙を敬惜す。汚穢なる者は洗うに柏水を以てす。焚せし後灰は浄土に埋む。二十餘年なること一日の如くして、二子を生む。一は團の副となり、一は將軍となる。親友これに效う。均しく皆顯貴たりて、子孫も亦た多し。比れ字灰を埋葬するに係るの報なり。)

第58話：保存經版獲福

嘉興西郷方子俊字秀夫。富而慳吝。中年得一子。癡呆多病。妻董氏。甚賢淑。力勸其夫廣行善事。敬惜字蹟。收買殘籍淫書。夫乃允。遂照行。好遊山水。偶見古廟廂屋内存舊板數堆。殘缺不全。泥汚朽爛。詢之住持僧以無主答之。俊與住持說明將舊板運回。全者並之一箱。箱外題明某經之板。爛者補之。造樓而藏不正之板盡行禁燬。後子疾勿藥而瘥。不獨不呆。且極靈敏。又生一子。得七孫。俱富厚顯達。人仰慕之。

(嘉興の西郷の方子俊、字は秀夫なり。富めども慳吝なり。中年に一子を得。癡呆にして多病なり。妻の董氏、甚だ賢淑なれば、其の夫に廣く善事を行うを勸む。敬惜字蹟に、殘籍淫書を買うを收む。

夫乃ち允され、遂に行いを照す。好く山水に遊び、偶々古廟廂内に舊板の數堆し、残缺して全からずして、泥汚朽爛する存るを見る。これを住持の僧に詢するも、以て主のこれに答うる無し。後、住持と説き明し舊板を將^{もど}って運び回る。全き者はこれを一箱に並べ、箱の外に題して某經の板と明らかにし、爛なる者はこれを補い、樓を造りて藏す。正しからざる板は盡く焚燬を行う。後、子の疾藥勿くして瘥ゆ。ただ愚かではないというだけではなく、極めて靈敏となり、又一子を生む。七孫を得、俱に富厚顯達す。人仰ぎてこれを慕う。)

以上、三話を紹介したが、いずれも、広義の「敬惜字紙」の行為を実践すると必ず善き報いが有るということを述べている。

(3) 『台灣的敬字亭』について

張志遠著『台灣的敬字亭』のことである。

この著作は、中華民國95年(2006)に、台北県新店市にある遠足文化事業股份有限公司から出版されたものであり、同社の「台灣地理百科」という叢書の中の一冊である。全205頁(縦21.5・横15.3・厚1.4 (cm))の書籍ではあるが、「敬字亭」及び「敬惜字紙」に関わるカラー写真が不断に使用されている。

内表紙(「台灣的敬字亭」と記されている)の次頁から樹火紀念紙博物館顧問凍大川に依る「推薦序」が2頁にわたり述べられており、次いで、著者張志遠の序文が2頁分ある。この後の該書の内容構成を次に記すことにするが、第一章の内容の次の()内の数字は、その内容の記されている頁を示すものであり、第二章に於ける()内の記述は①頁数、②惜字亭の創建年、③惜字亭が奉祀の神祇としているもの、の順に記すことにしている。

第一章 総論(8~57)

敬惜字紙の起源(10~15)

敬字亭の名稱(16~17)

敬字亭の分布(18~21)

敬字亭の功能(22~25)

敬字亭奉祀的神祇 (26~29)

敬字亭的造型藝術 (30~33)

敬字亭的裝飾 (34~37)

敬字亭的題字 (38~41)

敬字亭與金爐 (42~45)

客家人與敬字文化 (46~51)

送聖蹟的儀式 (52~57)

第二章 台北敬字亭巡禮 (58~71)

台北市：芝山岩敬字亭 (①60~62 · ②民國88年重建 · ③倉頡至聖)

東吳大學惜字爐 (①62~63 · ②民國50年頃 · ③無)

台北縣：新莊文昌祠敬字亭 (①64~65 · ②清光緒元年<1875> · ③無)

泰山明志書院敬字亭 (①66~67 · ②清同治年間<1862~1872> · ③無)

林樹潭底公園聖蹟亭 (①67~69 · ②清同治11年<1872> · ③無)

板橋林家花園敬字亭 (①69~71 · ②清光緒19年<1893>頃 · ③無)

第三章 桃苗敬字亭巡禮 (72~97)

桃園縣：南崁五福宮聖蹟亭 (①74~75 · ②清同治6年<1867> · ③無)

龜山大湖福德宮聖蹟亭 (①75~77 · ②日治1935年 · 民國89年重建 · ③無)

大溪蓮座山敬聖亭 (①77~79 · ②日治1936年 · ③魁斗聖君)

大溪齋明寺敬字亭 (①79~80 · ②清同治5年<1866> · ③倉頡至聖)

中壢新街聖蹟亭 (①81~83 · ②清道光年間<1821~1850>頃 · ③無)

龍潭聖蹟亭 (①83~87 · ②清光緒元年<1875> · ③無)

苗栗縣：苗栗市文昌祠惜字亭 (①88~89 · ②不詳 · 民國86年重修 · ③無)

公館鄉敬聖亭 (①89~90 · ②日治1924年以前 · 民國85年重

建・③倉頡聖人)

西湖五龍宮敬聖亭 (①91~92・②清光緒末年頃、民国70年
重建・③倉頡聖人)

西湖宣王宮敬聖亭 (①93~94・②清道光20年<1840>・③
倉頡至聖)

西湖德龍宮敬聖亭 (①94~95・②民国69年・③倉頡先師)

通霄北城里惜字亭 (①96~97・②清道光8年<1828>・③
倉頡至聖、司命真君、文衡聖帝、孚佑
帝君、魁斗星君)

第四章 高雄敬字亭巡禮 (98~119)

美濃鎮：瀾濃庄敬字亭 (①100~101・②清乾隆44年<1779>・③魁
斗星君、大成至聖孔子、制字倉頡聖人、梓
童文昌帝君、朱衣星君)

金瓜寮聖蹟亭 (①102・②20世紀初め頃・③倉頡聖人)

上庄仔敬字亭 (①103~104・②20世紀初め頃・③福德正神)

龍肚庄龍亭 (①104~105・②民国67年重建・③至聖先師)

廣善堂聖蹟亭 (①106・②日治1917年創建・③無)

德勝公壇字爐 (①106~107・②民国78年重建・③無)

廣化堂聖亭 (①107・②民国59年頃重建・③無)

天雲宮敬字亭 (①108・②民国78年重建・③無)

清水宮聖亭 (①108~109・②民国69年頃重建・③無)

崇雲宮聖蹟亭 (①109・②民国79年頃重建・③無)

輔天五穀宮聖蹟亭 (①110・②民国74年重建・③無)

石母宮字亭 (①110~111・②民国79年頃・③無)

善化堂聖亭 (①111・②民国63年・③無)

三山國王廟聖亭 (①112・②民国84年重建・③無。廟中奉
祀客家人的守護神——明山・巾山和獨山
三位王爺。)

慈聖宮字爐 (①112~113・②民国92年・③無。主祀天上聖
母的慈聖宮。)

聖化宮敬字亭 (①113・②民国89年重建・③制字開化二文昌)

獅山朝天五穀宮聖文亭 (①114・②民国85年重建・③無)

- 和興里福德祠字塔 (①114~115·②民国92年重建·③無)
曾家夥房福德祠聖亭 (①115·②民国74年·③無)
永盛庄福德祠字紙亭 (①116·②民国61年·③無。拱形的
爐口兩旁有「字紙熔爐火、文光射斗
星」的對聯。)
吉洋里福德祠字紙亭 (①116—117·②不詳·③無)
下九寮聖蹟台 (①117·②民国49年頃·③魁斗星君、大成
至聖孔子、制字倉頡聖人、梓童文昌帝君、
朱衣星君)
慈靈宮聖爐 (①118·②民国94年·③無。慈靈宮主祠天上
聖母。)
關聖帝廟聖帝 (①118~119·②民国84年·③無)
六寮水口伯公聖蹟亭 (①119·②民国68年·③無)

高雄縣其他地區：

- 阿蓮超峰寺惜字亭 (①120~121·②不詳。超峰寺創建於清
乾隆38年<1773>·③無)
梓官善化堂惜字塔 (①121~122·②民国51年創建、79年重
建。③無。)
大社明毅堂聖蹟亭 (①123·②民国71年頃·③無。創建於
民国三十九年的明毅堂、主祀關聖帝
君。)
杉林月美村賢文閣 (①124~125·②民国65年·③大魁夫子)
杉林樂善堂惜字亭 (①125·②日治1921年、民国92年重建·
③無。樂善堂原是行善的齋堂。)
杉林辰峰寺敬字亭 (①126·②民国73年重建·③無。辰峰
寺主祠客家常祭祀的三恩主。)
六龜勸善堂惜字亭 (①126~127·②日治1918年建、民国93
年重建·③無。勸善堂的送聖蹟活動於
每年農曆三月七日與祭河江活動一起舉
行、整個活動內容與美濃廣善堂的送聖
蹟活動大同小異。)

第五章 屏東敬字亭巡禮 (128~177)

高樹與萬巒鄉：

高樹慈雲禪寺敬字亭 (①130 · ②民国61年重建 · ③無)

萬巒庄敬聖亭 (①131 · ②民国48年重建 · ③無。萬巒庄敬聖亭是台灣最後一座仍有專人收檢字紙的敬字亭、這位專門收檢字紙的人、是人稱阿祥伯的林定祥、他每逢初一·十五就義務收集字紙、一直到九十歲背不動字紙簞了、仍叫家中晚輩幫他背字紙簞。自從阿祥伯去逝後、台灣檢拾字紙也成為了絕響。)

萬巒佳和村敬字亭 (①132 · ②日治1922年 · ③無)

萬巒鹿寮下敬字亭 (①132~133 · ②民国49年 · ③無)

萬巒慈雲堂字爐 (①133 · ②民国59年頃 · ③無。萬巒慈雲堂位在五溝村映泉禪寺後方、廟中主祀天上聖母。)

長治與麟洛鄉：

長治德協庄敬字亭 (①134 · ②不詳 · ③無)

麟洛麟趾村敬聖亭 (①135~136 · ②清光緒元年<1875> · ③文昌帝君)

麟洛開台聖王廟字爐 (①136~137 · ②民国79年重建 · ③無。麟洛開台聖王廟位於麟頂村、供奉延平郡王鄭成功、所以鄉民稱之為「鄭成功廟」、或是「鄭王公廟」。)

竹田鄉：糶糶庄敬字亭 (①138~139 · ②20世紀初め頃 · ③福德正神、觀世音菩薩。這二尊神明又是一般敬字亭較少供奉的神祇。)

二崙村敬字亭 (①139~140 · ②20世紀初め頃 · ③無)

竹南村文筆亭 (①140 · ②民国75年重建 · ③觀世音菩薩、關聖帝君、至聖先師孔子)

南勢村字爐 (①141 · ②民国81年重建 · ③觀世音菩薩)

履豐村文筆亭 (①142~143 · ②民国77年重建 · ③關聖帝君、孔聖先師、文昌帝君。每年農曆三月三日文昌帝君誕辰。農曆八月二十七日孔子誕辰及

六月二十四日關聖帝君誕辰、均會有祭拜祝壽之儀式。)

西勢村文筆亭 (①143~145·②民國77年重建·③關聖帝君、至聖先師、魁斗星君)

覺善堂文筆閣 (①145·②民國57年·③無)

太子宮字爐 (①146·②民國77年·③無。太子宮內奉祀中壇元帥。)

美崙村文筆亭 (①146~147·②民國62年·③魁斗星君)

內埔鄉：振豐村敬字亭 (①148~149·②20世紀初頃·③魁斗星君)

東勢村文星閣 (①149~150·②民國59年頃重建·③魁斗星君)

義亭村敬字亭 (①150·②不詳·③文昌帝君)

和興村頓水亭 (①151·②民國46年·③文昌帝君、孚佑帝君、關聖帝君)

興南村敬聖亭 (①152~153·②民國39年·③魁斗星君)

勸化堂字爐 (①153·②民國71年·③文昌帝君。內埔興南村勸化堂屬於齋堂。)

福泉堂字爐 (①154·②民國71年·③無。福泉堂屬於佛教中的齋教、一般又稱為「食菜教」。)

三山國王廟字爐 (①154~155·②民國79年·③無)

福善堂字爐 (①155·②民國81年·③無。福善堂主祀關聖帝君。)

慈善堂字亭 (①156·②民國67年重建·③魁斗星君。慈善堂主祀天上聖母。)

中壇元帥廟字爐 (①156~157·②民國56年·③無)

六堆天后宮敬字亭 (①157~158·②民國36年重建·③無。)

延平郡王祠字爐 (①158~159·②民國58年·③魁斗星君)

慈濟宮字爐 (①159·②民國69年頃·③魁斗星君)

樂善宮字亭 (①160·②民國55年·③無)

玄女廟字爐 (①160~161·②民國92年重建·③無)

妙善宮字爐 (①161·②民國69年頃重建·③無)

新埤與佳冬鄉：

- 新埤建功村聖亭 (①162~163·②民國60年·③倉頡先師、孔夫聖人、文昌帝君、魁斗星君)
- 佳冬佳冬村聖亭 (①164~165·②清光緒16年<1890>·③倉頡先師、文昌帝君、文魁星君)
- 佳冬賴家村敬聖亭 (①166~167·②20世紀初め頃·③魁斗星君、文昌帝君)
- 佳冬昌隆村聖亭 (①167~168·②清光緒3年<1877>、民國77年重建·③文昌帝君、關聖帝君)
- 佳冬萬建村敬字亭 (①168~169·②民國73年重建·③倉頡先師、文昌帝君、魁斗星君)

屏東縣其他地區：

- 里港國小敬聖亭 (①170~171·②清光緒3年<1877>·無。
里港國小敬聖亭歷經了清代的「雪峰書院」·日治時代的「公學校」·到現在的「里港國小」、可說見證了里港的教育史、是一處難得的文化遺產。)
- 里港武洛社區敬字亭 (①171·②不詳·③無)
- 枋寮水底寮敬字亭 (①172~173·②民國59年頃重建·③文昌帝君)
- 枋寮石頭營聖蹟亭 (①173~174·②清光緒元年<1875>·③無)
- 滿州敬聖亭 (①175~176·②日治1904年·③無。敬聖亭旁還有一方「新築敬聖亭樂助芳名碑記」、雖飽受風霜、但仍屹立於敬聖亭的旁邊。碑石上記錄滿州響林·車城·統埔等區的民衆、以一元·兩元數目、集資興建磚造敬聖亭。因為當時磚材取得不易、為了這座敬聖亭、遠在車城的客家人慨然相助、是道地的客家本性。)
- 南州永安宮紙爐 (①177·②民國68年·③無)

第六章 其他地區敬字亭 (180~203)

台中縣市：

- 林氏宗祠敬字亭 (①180·②日治1930年·③無。台中林氏

宗祠為台灣中部地區林姓總祠、不分漳·泉·客家的林姓、是屬於中部地區所有林氏宗親共同奉祠的宗祠。)

大甲文昌祠聖蹟亭 (①181·②民國85年重建·③無。大甲文昌祠、當地人稱文昌宮、又稱孔子廟。早在清同治元年<1862>、大甲舉人何清霖即曾申請興建「文昌宮」、內設義塾、以推廣文教、但因經費廟地一時無法齊備而作罷。一直到光緒13年<1887>、經過新竹知縣方祖蔭·貢生陳肇芳的倡建、才興建完成、供奉文昌帝君·孔子及韓愈、正殿為教學之所、大甲的學子們不必再到外地求學、文風因此而興盛起來。

彰化縣：鹿港龍山寺惜字亭 (①182~183·②清咸豐年間<1851~1861>頃·③無。鹿港龍山寺創建於17世紀、至清乾隆51年<1786>由鹿港八郊士紳遷到今址重建。)

和美道東書院惜字亭 (①183~184·②清光緒13年<1887>·③無。和美道東書院創建於咸豐7年<1857>、當時由地方夙儒阮鵬程·士紳陳茂才·貢生王祖培·稟生黃際清等人奔走倡建、並親自籌劃督造營造工程、隔年落成。取名道東書院、意指「王道東來」、地方雅稱「文廟」。道東書院惜字亭爐口上方有「文昌祠」門額。)

員林興賢書院敬聖亭 (①185~186·②清光緒7年<1881>·③無。座落員林公園內的興賢書院、原是「文昌帝君廟」、創建於清嘉慶12年<1807>、主祠的文昌帝君為讀書人的守護神。)

竹塘醒靈宮聖蹟亭 (①186~187·②民国41年·③倉頡聖人。
醒靈宮位於竹塘鄉民靖村、是彰化客家人聚落七界內的信仰中心。竹塘的醒靈宮創建於日治1914年、由苗栗獅潭鄉的醒世堂分香而來、供奉關聖帝君·孚佑帝君和灶君爺的三恩主公。)

南投縣：集集明新書院惜字亭 (①188~189·②清光緒8年<1882>·
③無)

草屯登瀛書院敬字亭 (①189~190·②清道光27年<1847>·
③無。登瀛書院敬字亭最珍貴之處、是保存了昔日撿拾字紙的竹簍、字紙簍大致如傳統「一尺二寸、高二尺五寸」的規格、竹簍外圍並書寫著「敬惜字紙」、堪稱珍貴的文化資產。この竹簍の写真は頁190に有り。)

南投藍田書院敬聖亭 (①191~192·②民国86年重建·③無。
建於清道光11年<1831>的藍田書院、是一座閩南式三合院建築、集文昌祠及濟化堂一身。)

竹山社寮敬聖亭 (①192~193·②清咸豐11年<1861>·③
無)

鹿谷新寮聖蹟亭 (①194~195·②清同治10年<1871>·③
無)

雲林·花蓮與金門縣：

西螺振文書院字紙亭 (①196~197·②清嘉慶18年<1813>
頃·③無。位在雲林縣西螺鎮的振文書院、其前身是「振文社」。清嘉慶18年、西螺文人廖澄河等、捐資興建文昌帝君祠、當地人都稱為文祠。)

鳳林校長夢工廠敬字亭 (①197~198·②民国93年·③無。
由日治時代「鳳林支廳長官舍」改建的「校長夢工廠」、仍保留日式

的建築風格。)

金城浯江書院敬字亭 (①198~199・②清乾隆46年<1781>・
③無)

台南縣市：

台南祀典武廟敬字亭 (①200~201・②日治時代以前・③無)

台南德化堂敬字亭 (①201~202・②道光18年<1838>・③
無。位在台南市府前路的德化堂、原是齋教龍華派的傳教場所、齋教為佛教的
分支、在家修持、又稱「持齋教」、或
稱「食菜教」、主祀觀世音菩薩。)

歸仁敦源聖廟敬字亭 (①203・②道光緒9年<1883>、民
國87年重修・③無。台南歸仁鄉的敦
源聖廟、亦稱孔子廟、為敦源社之改
稱。敦源社是台南縣新豐區的文人於
光緒9年<1883>所組的一個詩社、
直到日治時代1927年始由社友・詩人
和地方士紳共同募款建廟、聖廟雖然
格局簡單、但仍顯露出民間對於孔子
的崇敬。由於敦源社的前身是早期的
惜字會、因此在其正殿旁設有一座敬
字亭。)

參考書目 (204~205)

圖片來源 (205)・奧付頁 (206に該当)

以上が、『台灣的敬字亭』の内容及び構成である。

先づ、「敬字亭」という呼称のほかにも同義で使用されている言葉をあげてみることにする。()内の数字は本書の中で使用されている件数である。

- 1) 敬字亭 (29) 2) 聖蹟亭 (15) 3) 字爐 (14) 4) 敬聖亭 (13)
5) 聖亭 (10) 6) 惜字亭 (8) 7) 文筆亭 (4) 8) 字紙亭 (3)
9) 字亭 (3) 10) 惜字爐 11) 惜字塔 12) 龍亭 13) 壇字爐
14) 聖文亭 15) 字塔 16) 聖蹟台 17) 聖爐 18) 紙爐 19) 賢文
閣 20) 文筆閣 21) 文星閣 22) 頓水亭 (10) ~22) までは全て件数

(1) である)

同義語として用いられているものが21件もあるということには些か驚かされたのも事実である。

このことは、多種多様な人々が、敬惜字紙とその行為に大きく関係する「場」に対して「敬字亭」という一語ではなく、各人各様に同一概念を別表現したということであろう。それだけこの「敬惜字紙」ということが、人口に膾炙していたものと思われる。

次に「惜字亭」が奉祀の対象としている「神祇」について見てみると、やはり、倉頡・文昌帝君・魁斗星君・關聖帝君・孔子等をあげることができる。

倉頡は漢字の創作者であり、「字紙」に対して最も関係の深い人物である。文昌帝君は学問や科挙について司る神として位置付けられており、科挙制度の確立と普及に伴ない、宋代以後、知識人達の信仰が特に拡大していった。文昌帝君は魁星（斗魁）といわれる北斗七星の中の天枢・天璇・天玑・天権の四星（文昌宮という）が神格化されたものであり、功名・寿命・福祿を司るとされている。

(4) おわりに

「敬惜字紙」という行為は大別して二通りの意味を持っているということは「はじめに」の中で述べたのであるが、この前者の方の「敬惜字紙」の行為の中には、単に「字紙」を「敬惜」ということだけではなく、人々に有害であると認識された「淫書」の類を集め、廃棄するということが、その目的の一つとして実行されていたことが判る。^{注(9)}

これは、特に善会・善堂の目的が、単に人民の救済に主眼がおかれていたと考えるだけではなく、もう一つ、「社会教育」に対しても寄与すること大であったことが了解できるのである。

本稿は、『惜字徵驗録』と『台湾的敬字亭』の二書を紹介することにより、ごく普通に「庶民」という名のもとに生活している、清末・民国そして現代の人々が「敬惜字紙」をどのようにとらえ、各自の生活の中に位置付けているのかの一端を垣間見たいと考えたのであるが、未だその目的を達することが出来ずに終ろうとしている。紙幅の関係ではあるが、敬惜字紙の直接資料及び関連資料に対して、十分な紹介や検討が

来ずに省いたものが多かったことは反省せねばならない。

<注>

注1：「字紙」とは一般的には文字の記された紙の類を言うのであるが、敬惜の対象となるものは、陶磁器・木板・木牘・布等にまで及ぶ。

注2：「惜字炉」とは、敬字亭・聖蹟亭・字紙亭・敬聖亭・惜字亭・文筆亭・文星閣・文昌亭・惜字宮などと称され、蒐取してきた「字紙」を洗浄し乾燥させた後、焚焼するための「炉」である。

注3：ここで言う「貼り込み帖」は、例えば、著作堂主人（滝沢馬琴）の集めた『玉照堂遺愛字紙』上・下（早稲田大学所蔵）・滝沢馬琴編『惜字雑箋』（6冊・早稲田大学所蔵）・森島中良集『惜字帖』（2冊・早稲田大学所蔵）・滝沢馬琴集『敬惜字紙小成』上・下2巻；早稲田大学所蔵）・富岡鉄斎双幅『敬惜字紙』（筆者未見・えびな書店の目録に依ると、「富岡鉄斎が東遊の折、石川三碧と歓談してその間に答え筆記したものを石川が表装し鉄斎に箱書（大正12年成）を求めたもの。題字・跋の他、玉堂琴譜のこと、鉄斎の短歌も有る。」と記されている。

森島中良集『惜字帖』には、ロシア文字の拓本（ラクスマン随行—ロシア水兵の墓碑銘）が貼られている。このロシア文字拓本については、岩井憲幸『『惜字帖』中の露字拓本——ラクスマン随行—ロシア水兵の墓碑銘——』（『明治大学教養論集』通巻359号・頁95—110・2002年9月）を参照のこと。

注4：黄苗子著『敬惜字紙』（寧夏人民出版社・1986年12月・11.4×18.0×0.5（cm））自序に依ると、この書は『千字文』と『中山集』という二種の著作を収めており、これらの雑文と詩はすべて1976年から1984年の間に作ったものであるという。以下、両書各々その収載作品数を記すことにする。『千字文』は小引を含め36篇、『中山集』は小引を含め77篇である。本文総頁数は、目次以外151頁・内表紙・自序2頁・目次7頁・奥付1頁で構成されている。

注5：酒井忠夫著『中国善書の研究』（弘文堂・1960年8月初版）

酒井忠夫著『増補中国善書の研究』上（国書刊行会〔酒井忠夫著作集1〕1999年2月初版）

注6：字簞について

『点石齋画報』（天津古籍出版社・2009）収載「字簞放光」参照。

『清朝と近代世界19世紀』（吉澤誠一郎著・岩波書店〔岩波新書シリーズ中国近代史①〕・2010・頁177に写真家ジョン・トムソン撮影写真が掲載されている。）参照。

『書籍の社会史——中華帝国晩期の書籍と土人文化』（周紹明<Joseph P. Mc Dermott>著・何朝暉訳・北京大学出版社・2009・頁184・図7）参照。

注7：癸酉年は、1933（民国22）年・1873（清同治12）年・1813（清嘉慶18）年の3つが考えられるが、書物の体裁内容から1933年ではないかと考える。

季冬月は旧暦10月のこと。中浣は月の11日から20日までのことで、中旬と同義。

注8：甲戌年は癸酉年の翌年。ここでは1934（民国23）年と考える。

注9：惜字会について

夫馬進著『中国善会堂史研究』（同朋舎出版・1997年初版）頁651～671参照。

ここでは、善会が行なっていた「敬惜字紙」の事業内容の多様性と特異性についても記されている。

参考文献：

参1：『帝君寶訓』

本稿で用いた『帝君寶訓』は、「光緒癸巳荷月敬刊」の木版本である。「板存省城狼虎街官書局」という記述もありその後、施印の工料が記されている。光緒癸巳は光緒19年（1893）である。

第123左2行目から9行目には「穢濁字紙」、第124右1行目から7行目には「惜字獲報」、第124右8行目から左2行目は「汚字雷撃」、第124左3行目から8行目には「棄字減壽」が述べられている。

参2：『關聖帝君寶訓像註』

第15葉右1行目から8行目には「穢濁字紙」、第15葉左1行目から6行目には「惜字獲報」、第16葉左1行目から3行目には「汚字雷撃」、第17葉左1行目から5行目には「棄字減壽」の記事があり、第16葉右、第17葉右、第18葉右には、それぞれ、惜字獲報・汚字雷撃・棄字減壽に関係する絵図が翻刻されている。

参3：『青雲梯』

本稿で用いた『青雲梯』は、「同治玖年季冬吉日樂善堂重刻」とありその板については、「板有粵東省城天平街雅經堂」と記されている。つまり、清同治9年<1870>12月吉日に樂善堂という善書刊行の書肆から重刻出版されたものである。

第1葉左から第28葉まで、これが『青雲梯』の本文である。その後、『敬字顯報』が、第1葉右から第10葉左まで続いて印刷されている。

本『青雲梯』は『明清民間宗教經卷文獻』第11冊に記載されているものなのであるが、目次には、ただ「青雲梯……287」とその開始頁のみが記されているだけで、『敬字顯報』については何の記述もない。『青雲梯』の次に収載の『桂宮梯』は、「桂宮梯……309」次いで「序……311／目次

………313／卷1 惜字功律………321／卷2 不惜字罪律………336／卷3 惜字眞詮………353／卷4 惜字眞詮………366／卷5 惜字神訓彙略………379／卷6 惜字廣誠彙略………386」となっている。

『青雲梯』の内容について、第1葉左には「咸豐己未孟冬吉旦里人周大鏞鑑如氏附跋」と文末に記述のある跋文がある。第5葉左から第7葉右には「文昌帝君勸敬惜字文」、第8葉右から左は「敬字説」、第9葉右から第14葉左6行目は「惜子良規（慎獨齋主人纂輯）」——第9葉右2行目から第10葉左は、「惜字勸善十二則」、第11葉右から左1行目は、「惜字宜戒七則」、第11葉左2行目から第12葉右1行目は「惜字廣意六則」、第12葉右2行目から左は「惜字正詮十二則」が収載されている。第13葉右から第14葉左6行目は、「首惡戒淫篇」、第15葉右から第18葉右は、「嚴戒演淫戲説」、第18葉左から第25葉左は「戒造淫書春晝春鏡論」、第26葉右から左は、「蘇真人善字論」、第27葉右から第28葉左は、「靈驗記」が記されている。

『青雲梯』に続く形で附されている『敬字顯報』は第1葉右から第4葉左3行目までは「惜字要言」が記され、その後、第5葉右から第10葉左4行目までは、「敬惜字紙」に関わる応驗譚が記されている。

参4：『桂宮梯』

本稿で用いた『桂宮梯』は道光四年（1824）の自序並びに道光29年（1849）の重鐫桂宮梯序が刻されている木版本である。

全6巻である。次に各巻の内容を示すことにする。

巻1：文昌帝君惜字功罪律

功律（功律案共七十四則）

巻2：罪律（罪律案共六十則）

巻3：文昌帝君惜字眞詮十二則上

巻4：文昌帝君惜字眞詮十二則下

巻5：惜字神訓彙略

巻6：惜字廣誠彙略

参5：「惜字律二種」（辛徳勇著・『中国典籍与文化』2000年第4期収載）

参6：『陰陽文註證』

本書は、「中華民國14年（1925）春3月穀旦」に「佛學推行社」敬誌の善書である。この書中、第44葉右8行目から第45葉右7行目に「勿棄字紙」の文章が載っている。

参7：『改良繪圖宣講集要』（錦章圖書局蔵版・巻9・第33葉左10行目から第

34葉左7行目に「惜字獲金」の記述がある。

参8：敬惜字紙に関する行為について

楊秀静『由台湾書院祭祀觀察儒學與民間崇拜之交涉』（国立雲林科技大学漢学資料整理研究所・2011）頁39～44の第4節「敬字習俗之儀式意涵」参照。
蔡慧怡『台湾惜字風俗之研究——以南部六堆客家村為例』（国立台南師範学院郷土文化研究所・2009）頁111～：第2節台湾善書中の惜字條律；頁120～124：表4—2 惜字律因果報應禍福對應表；頁125～127：表4—3 惜字因果報應故事中之果報分類表；頁131～134：表4—4 惜字律功過之算計條例表を参照のこと。

これ以外の参考文献については、「敬惜字紙について—森島中良・瀧澤馬琴の敬惜字紙—」（『東洋思想文化』第2号、2015、頁141～140）を参照のこと。